

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念	どんな障害を抱えても、普通の暮らしが続けられると考えて、ケアテーマと8項目のケア方針に基づき、ことぶき園は地域に根ざす普通の家と考えて、日々実践に努めている。		
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
	○理念の共有と日々の取り組み	朝夕の申し送り、職員会議等で話し合いを繰り返し、実践を通してどう考えるかを確認し合い、理念を学び合うようにしている。		
2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
	○家族や地域への理念の浸透	毎月発行のことぶき新報にて、理念を伝える努力をしており、また、できるだけ地域に出かけ、公園等での様子を見てもらったり、自然な流れの中で知ってもらおうようにしている。		
3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる			
	○隣近所とのつきあい	気軽に話ができる雰囲気をつくるよう努力をしている。また、道行く子供等に声をかけてホールに入ってもらったり、御近所の方との立ち話を大切にしている。餅つきにも当日、声をかけてベランダより参加してもらった。		
4	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている			
	○地域とのつきあい	建設中の棟上時には町内会長さんに餅をまいて頂き、町内にビラをまき、たくさんの方に参加していただいた。溝掃除にも参加している。	○	ことぶき園の会議室やデイサービスの部分を町内の行事に使って欲しいと伝えてあるが、未だ利用がないので引き続き働きかけたい。
5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	様々な研修にてことぶき園の取り組みを報告したり、様々な実習生を受け入れて、グループホームの本質を伝え、それが地域の中で生かされたいと願っている。個人の相談も増え、支援センターにつないだりしている。	○	ボランティア「麦の会」が塩冶地区のひとり暮らしの方を招き、ことぶき園にて食事を作りたいと考えておられるがまだ実行には至っていない。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を踏まえ、全員で自己評価を行った。その中で一年目の職員から様々な質問を出してもらい、基本的な点での再確認の場となった。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う度に内容を確認しあえ、参加者のことぶき園への理解が高まりつつある事を感じる。報告は掲示板にはりだしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今までは連携がなかなか難しかったが、園を新設するにあたり、市と話し合う機会が増え、グループホームとは何かを積極的に話せるようになった。出雲市グループホーム連絡会を立ち上げて、出雲市と話し合う機会を作っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに研修会に参加しているが、対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員にアドバイスをし、支援に努めたいと考えている。	○	職員の中での学習会で成年後見制度について学びたいと自己評価の中で声が出たので、今後計画をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相手の立場に立って物事を考えていけば、虐待などありえないと考えているが、改めて話し合いをして、虐待を見過ごさない意識を高める努力を日々繰り返さなければいけない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には時間をとり説明をして、理解を得ている。重度化や看取りについては、その時を感じた時に繰り返し話し合いをしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者は介護度も高く、難しいが利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の場をつくるよう努力している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月一回の請求書配布時に、ことぶき新報と、その月の写真2～3枚を渡すことを続けている。訪問時に話をする機会を作り、信頼関係を深めるようにしている。各々の家族がそれをコピーして他の家族に送っているとも聞いている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が話しやすい雰囲気を作り、信頼関係を深めることを努力している。話の中から感じた事はすぐ報告をし、職員で話し合い、問題解決をしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>勉強会、職員会、申し送りなどで意見や提案を言ってもらえるよう努力をしている。なかなか話しにくい職員とは個別に時間をとり話しをするよう努力している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日々の状態を聞いて、臨機応変に対応するよう努力をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者はグループホームが開始した1997年から替わっておらず、利用者との関わりも深く、それを新しい職員に伝え、顔なじみになるまで援助をし、ダメージを防ぐようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input type="checkbox"/> 日々、目の前の利用者が教えて下さると思っている。それを感じる力がないと成長できないので感性をみがく研修を選び参加してもらう。定期的に法人としての研修がある。	<input type="checkbox"/> 理事長塾があり理事長を囲み、様々な学びができる機会を作っている。法人としての定期的な学習会。また、園内では毎月学習の場を作っている。また、外部の研修に交替で参加し、報告会をしている。
20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input type="checkbox"/> しまね小規模ケア研修会や出雲市グループホーム連絡会の研修会等に交替で参加し、報告レポートと職員会での報告をすることを続けている。	<input type="checkbox"/>
21	<input type="checkbox"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 休憩室にて気分転換できるよう努めている。時には理事長も一緒に休憩室で休憩している。職員のストレスを把握するように努め、各々と話をする時間を作っている。	<input type="checkbox"/>
22	<input type="checkbox"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<input type="checkbox"/> 各々の資格取得に向けた応援をし、本人の意向を尊重できるように努めている。また、各々に合った研修会に誘っている。	<input type="checkbox"/>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<input type="checkbox"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<input type="checkbox"/> ことぶき園はほとんどの方がデイサービスや小規模多機能からの利用なので、不安をとりのぞくように配慮ができています。	<input type="checkbox"/>
24	<input type="checkbox"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<input type="checkbox"/> ほとんどの方がデイサービスや小規模多機能からの利用なので、家族との信頼関係も深め、話し合いを多くしている。	<input type="checkbox"/>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞き、丁寧に対応するように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスから始まり、顔馴染みとなる努力をしている。臨機応変、柔軟に支援するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ立場に立ち、支えあう関係を築くことがその方の居心地良さを作ると思うのでそれを常に職員に相手の立場に立って考えることを何度もくり返し話し、意識してもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子をきめ細かく伝えて共に考えていきたいと考えているが、まだまだ人によっては足りないかもしれない。不安を作るのではなく、希望を伝える努力をしていきたい。	○	職員の思いをきめ細かく伝え、共に支えていただくよう家族との話し合いを多くしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個室となったので、面会の時はお茶を差し入れ、部屋でゆっくりとして頂けるような環境を作るなどしている。	○	介護技術も伝えながら、家族にも介護に参加してもらえるような努力が必要である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの理髪店やお店にお連れしたり、家に帰るのに車がない人は、お連れしたりしている。また近所の方に来てもらったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の支えあいの場面が多くなるような声かけをしている。また、気のあう方を把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了した家族も法人の理事やボランティアとして残って関わりを残している方、また近くに来たと顔を出してくださる方、知り合いの介護の相談をして来られる方等、いろいろおられて大切にしていきたいものです。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	5年以上の長いおつきあいをすると、日々の言葉や表情から気持ちが伝わるようになり、それに応えるよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が語られた中からできるだけ把握をするように努め、その情報を大切にして、その人らしくを大切にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の目線、表情を重視し、生き生きとされる場面を見つけ、それを大切にするようにしている。また、年月を共に過ごす季節ごとのその方の様子も把握できるようになり、参考にしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケース検討を開き、その方の良さを発見するように努めており、本人の意思を曲げないように配慮している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	臨機応変に変更できるケアプランを立てて、対応している。日々の細かい状態変化や本人の要望を聞き逃さないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく、個別記録に記入するようにしている。また、そこからの得たものを共有するようにケース検討会では話し合いを大切にしている。	○	記録者によってはやったことのみを記録する人もいるので、気づきを大切にすることを指導していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の様子をよく知り、対応するように努めている。各々の馴染みの開業医が往診され、通院も柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	その方が興味をもたれることには積極的に参加できるように市民会館や美術館等に出掛けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	海の見える図書館、温泉、美術館など情報を得て出かけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターの職員との話し合いの機会が増え、情報交換をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医を大切にしている。往診に来られるお医者さんも、園の様子を理解していただき、応援してもらっている。看取りも共にする確認を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	園として相談できる専門医と関わりを深めるように早く手続きをとりたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権尊重はくり返し伝えている。また、職員ひとりひとりの声かけを把握し、相手の立場に立っているかを考えていく。	○ 細やかな気配り、相手の気持ちを考えることは、かなり注意をしているが、まだ全職員とはいえず気をつけなければならない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	当然の事であり、小さな事も自己決定する努力をしている。声かけに表れる。	○ しかし、全職員がそうかという、まだ指導がなっていない部分もあるようで、今後も指導していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりを大切に、接しているが、したいと思われた時、職員の都合で動けないこともでてきており、まだまだ検討が必要である。	○ 基本的にはできているが、デイと小規模と一緒に、ゆったりと接する時をどうすべきか職員間の話し合いが必要である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔からの理、美容に出かけていただく援助をしている。その人らしさを大切にしている。昔から使っている鏡台を持ち込んでいる人もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの特徴は、長い付き合いの中で理解しているので、合わせて援助するように努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自由であり、本人の望むように答えているが、病気がある場合は、様子を見て助言している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとりひとりをよく考えて援助をしている。この間から、ポータブルをやめてトイレで夜間も通えるようになった方が2人おられる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その人、各々に合わせて工夫をしているが、難しい点もでてきた。	○	夜間入浴等、自由に入ってもらおうようにしていたが、新設となり、状況が変わり、現在は難しい点もある。今後、検討し、工夫をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとりの体調リズムを把握しており大切にしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりの把握はできており、工夫をしてやっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には自分で支払ってもらったりしているが、なかなかそれも難しくなっている人がほとんどである。	○	お金を持つことの大切さを忘れないためにも、時々話し合う必要がある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらうよう、できるだけ交替でも外に出てもらったり太陽に当たったりしてもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたいと言われた所にはできるだけ支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時々であるが、遠い家族に名前だけでも手紙を書いて郵送したりし、電話をしていることを意識の中におきたい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居の方の夫が訪ねてきて、月10回くらいはお昼ごはんを(園の物)一緒に食べていかれる方もおられる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ことぶき園の設立以来、当然の事と考えており、改めて学びあった事はない、人権尊重を日々学んでいけば考えられないと思う。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普通の暮らしを追求し、管理をしない、自己決定、拒否権の保障を徹底することに努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	充分配慮しているつもりであるが、再度点検をしたい。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取りのぞくのではなく、状況に応じて普通の暮らしを大切にしながら考えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとりひとりの行動が予想できる職員集団であるべきで、それが事故防止につながると考える。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署へ行き学んだりしているが、今年度はまだやっていない。	○	定期的に行えるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行っている。地域の協力を日頃から受けられるよう顔馴染みになるように努めている。管理者は防火管理者の資格を得た。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	何事も家族にはすぐ報告をして、理解をしてもらうように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子はよく知っているので早期発見しやすく、管理者報告をし、すぐ対応することに努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルは誰もがみられるようになっており、把握している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要な方は、排便表を作成している。また、毎朝の牛乳や繊維質の多いもの等で自然排便を大切にしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には毎食後、行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にチェックをしてもらっており、支援をしている。夜間の間食も取り入れ、水分摂取をして眠ってもらうようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員共にインフルエンザ予防接種を受けており、ノロウイルスの学習も10月に全職員で行った。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生面には気をつけ、古い食材は処分するなど管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季折々の花が咲くように努めている。干し大根や玉ねぎ、干し柿等をぶらさげている。	○	新築して9ヵ月。まだまだ工夫するところがあるようである。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が真ん中にあり、生活の匂いはするようになっている。中庭にて太陽の下、お茶を飲んだりできる。	○	新築して9ヵ月。まだまだ工夫するところがあるようである。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その都度、皆さんの様子を見て配慮し工夫をしている。デイサービス、小規模の空間も大切にしている。	○	新築して9ヵ月。まだまだ工夫するところがあるようである。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	人によって部屋の様子が違う。完全に自分の空間としている方、また自分の部屋がわからない方、いろいろだが居心地良く考えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	風邪対策としても空気の入れ替え、換気には気を配ってこまめに行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人各々に合わせて工夫をしている。できるだけ手すりは避け、自力でできるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方の目線を見て、心の安定をはかるよう、話し合い努力している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	どこからも外に自由に出ることができ、また、デイサービスや小規模多機能の空間に自分の場所を見つけ行動されるようになっている。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「人は人間らしく笑顔で暮らす権利がある」をケアテーマとして、人間らしく心も身体も自立(律)していただくために、同等の立場で接し、お互いに思いやりあう集団となってもらいたい。そのためにはまずは、職員集団が共に高めあう集団であるべきと考えている。自分が高まる空間、素のままであることができる空間の中にと心にとりができ、やさしい自分でいられ、人間らしい笑顔がでてくると考え、日々取り組んでいます。